

パリのお店で仕事をしていたとき、①困ったのは、お客様に「寿司はできないの?」「デザート(注1)はないの?」と聞かれたことでした。お寿司は、日本料理とは修業(注2)が全然違うのですが、フランス人にとってみれば「日本レストランなのに寿司がないのはどうしてだー?」となるわけです。日本のイタリアレストランにピザがなくてしかられた時代もあったのですが、②それと同じような感じでしょう。もちろんそれだけでなく、デザートのないレストランなんてヨーロッパにはあり得ませんから、寿司もデザートも一生懸命勉強しました。この頃の努力は今とても役立っています。世の中にムダな努力は本当にはないですね。

うちのお店では、お椀の次は、「お凌ぎ」といって、小さなお寿司をお出します。

一貫だったり二貫だったりしますが、軽くお寿司を味わっていただきます。これはひと区切り(注3)の合図です。料理の最後は (A) で終わるのですが、途中で一回お寿司をお出しして、ここでとりあえず一段落。ちょっとお腹を落ち着かせてもらって、ここからまたお酒を飲みましょうという気分を持っています。

(注1) デザート：食後に出される菓子や果物

(注2) 修業：技術を習って身につけること

(注3) ひと区切り：ひとまずの切れ目



7 ①「困ったのは」とあるが、どうして困ったというのか。

1 ヨーロッパにはデザートがないレストランはないから

2 メニューにない料理を出すことは許されなかったから

3 まだ修業中でお寿司をにぎることができなかったから

4 寿司やデザートは一般の日本料理にはないものだから



8 ②「それと同じような感じ」とあるが、「それ」とは何を指すか。

1 日本人がイタリア料理の典型をピザだと誤解していること

2 フランス人が日本食のレストランで寿司を食べたがること

3 日本のイタリア料理のレストランでピザが食べられること

4 ヨーロッパのレストランでは寿司が人気があるということ



9 (A) に入れるのに最も適当な語句はどれか。

1 お酒

2 気分

3 お椀

4 ご飯

パソコン（※1）と利用者

オフィスでも家庭でも、パソコンを日常（※2）的に使う人は増えている。

パソコンは常に改良され、新しい機種（※3）が発売され続け、各社の競争も激しくなっている。①そのような中、使用者（ユーザー）によく知られているパソコンメーカーはどこだろうか、また、よく使われているパソコンはどこのメーカーの製品だろうかなど、興味のある②ところである。

そこで、今回、パソコンメーカーの認知度と実際のパソコンの使用数、パソコンの満足度の調査が行われ、つぎのような結果となった。

一番知られているメーカーはA社、ユーザーが一番満足しているパソコンは、ノート部門ではB社、デスクトップ部門ではC社だった。このことからわかるように、皆が知っているからといって、そのパソコンのユーザーの満足度が高いとはいえない。また、H社のように、多くの人が使っているにもかかわらず、認知度は低いメーカーも見られた。

くわしくは、つぎの表のとおりである。

項目

順位

1位

2位

3位

4位

5位

認知度

A社

D社

J社

K社

E社

使用者

A社

D社

H社

I社

B社

満足

ノート

B社

F社

A社

D社

J社

デスクトップ

C社

G社

D社

A社

K社



(※1) パソコン：パーソナルコンピューターの略。個人で使用する小型のコンピューターのことです。パソコンを製造し販売する会社をパソコンメーカーといいます。

(※2) 日常：毎日の生活。ほぼ同じことの繰り返しのことです。反対語は非日常で、普通の生活をはなれて、たとえば、旅行をしたり、めずらしい経験をしたりすることです。

(※3) 機種：製品の種類の事です。



1 ①そのようなとは、どのような意味か。

1 パソコンは、生活の一部になっている。

2 パソコンメーカーは1社だけである。

3 どのメーカーのパソコンが使われているか、興味が集まっている。

4 パソコンメーカーは、競争が激しい。



2 ②ところと同じ使い方をしているものはどれか。

1 東京で、どこかおもしろいところを教えてください。

2 今、ちょうど出かけるところです。

3 この車の一番いいところはどこですか。

4 ところで、いつ結婚されたのですか。



3 文章で使われている言葉について、正しくないものはどれか。

1 使用者とユーザーは、同じ意味である。

2 満足度が高いということは、人気があるということである。

3 よく知られているということは、認知度が高いということである。

4 使用数が多いということは、使っている人が多いということである。



4 文章および表の内容と合っているものはどれか。

1 認知度が高いパソコンは、ユーザーの満足度も高い。

2 E社は、認知度が高く、使用数も5位までに入っている。

3 使用数は多くないが、認知度あるいは満足度が上位のメーカーもある。

4 すべての項目で5位までに入ったのは、A社だけである。



「日本に魅力があるうちに開国を」と訴えるのは早稲田大のカワン・スタント教授(60)。米国やシンガポールなどのように、優秀なアジア人に門戸を開けば、少子化で停滞する(注1)日本は再び活性化すると主張する。インドネシアの華人で1974年に来日。東京工業大、東北大で博士号を取得したが、日本で研究職に就けず米国へ。

93年に日本に戻り、新設大学の教授になったが、やる気のない学生であふれていた。「人間ほど大事な資源はない。日本にはほかに資源がないのに」。以後、日本の教育に警鐘を鳴らし(注2) 続け、昨年8月に2冊目の著書「感動教育」を出版した。

「日本の学生は非常に内向き。留学生をもっと受け入れれば違う国の人の意見はこんなにお

もしろいのかと気付くはずだ」

(注1) 停滞する(ていたいする)：物事が先に進まなくなる

(注2) 警鐘を鳴らす(けいしょうをならす)：注意して警告する



スタント教授の主張にあうものはどれか。

- 1 日本に留学や就職をする外国人を増やす努力をすべきだ
- 2 優秀なアジア人の留学生は新設大学に入学させるべきだ

3 日本の学生は内向きにならず、もっと海外留学すべきだ

4 経済を活性化するためにはアジア諸国と貿易するべきだ

日本語学科主任殿

国際交流センター長

講演者の推薦について（依頼）

☒☒☒☒☒

このたび、日本文化への理解を深めるため、
下記により日本文化に関する講演会を行なうこ
ととなりました。

ついては、日本語学科から日本文化を専門とす
る教員2名を講演者として_____。

なお、講演者名と略歴を6月1日（水）までに
ご連絡ください。

☒☒☒☒☒

記

☒☒☒☒☒

日時 平成23年6月21日 13時20分
～17時10分

会場 国際会議ホール（図書館6
階）

講演会名 「台湾から日本文化へのまなざし」

参加対象 地域観光協会役員および会員
(約150名)

以上



この文章の に入れるのにもっとも適当なものはどれか。

1 招待する予定になっています

- 2 推薦くださるようお願いします
- 3 予定している次第でございます
- 4 講演会に参加させてください

いま、英国では1日中、どこからともなく、この単語が聞こえてくる。

「へんまん」

TVをつけると、「へんまん！へんまん！」
売店で新聞の見出しを見ると、「へんまん！へんまん！」

へんまん＝ヘンな男。なんだそりゃ？

ヘンマンとは、ティム・ヘンマン。英国人の

プロテニス・プレーヤーである。いま、プロテニスのウィンブルドン選手権が開催 (注1) されている。

「ウィンブルドン現象」という言葉を聞いたことがある方も多いだろう。

これは元々、ウィンブルドン選手権で、地元英国選手が (1)、外国勢 (2) 活躍するのに盛り上がっている様を表現したのが語源 (注2)だ。 (3)、男子シングルスで1930年代以来英国選手が優勝してないらしいから。

この現象と、近年英国の銀行や大企業がどんどん外国資本に買収され、英国資本の企業が国内になくなってしまったのに、英国内は景気がよく、雇用 (注3) も維持されている現象がよく似ているため、「ウィンブルドン現象」と呼ばれるようになった。

ティム・ヘンマンは、この（ 4a ）がさっぱり活躍しないウィンブルドンで、（ 4b ）唯一の期待の星だ。なにしろ昨年まで4年連続男子シングルス準決勝進出。（ 5 ）と期待されている。

彼は世界ランク10位前後の選手なのだが、ウィンブルドンだけはめっぽう強い。その秘密は、彼のプレースタイルにある。

（注1）開催：大会などを開くこと

（注2）語源：単語ができたはじまりのこと

（注3）雇用：お金を払って人をやとうこと



(1)

1 しっかり活躍していて

2 しっかり活躍しないと

3 さっぱり活躍しないで

4 さっぱり活躍しないと



(2)

1 ばかり

2 ならば

3 ぐらい

4 として



(3)

1 なにしろ

2 しばらく

3 ともかく

4 とはいえ



(4)

1 a 選手

b 英国

2 a 英国 b 選手

3 a 英国選手 b 選手

4 a 英国人 b 英国人



(5)

1 今年ならば優勝が

2 今年までに優勝は

3 今年こそは優勝を

4 今年ばかり優勝で

食の文化的側面（注1）を研究しはじめているのは欧米と日本など豊かな国々においてであり、食生活の歴史の研究の書物が自国人によって書かれているのもこれらの国々に集中している。いずれも、経済的に豊かで飢餓（注2）の恐怖をかかえていない国においてのことなのである。食が足ってのち、食の文化について考える余裕ができるのだ。食の文化について考えるのは、一時的にせよ、そのような幸せな状態にある私たちのなすべき義務である、ともいえる。それは自国のためばかりではなく、人類の共有財産として、いつか役立つ方向のものに研究が進むことを要請されている（注3）のである。

（注1） 側面（そくめん）：いろいろな性質のうちの一つの面

(注2) 飢餓(きが) : 食べ物が足りずに
飢える

(注3) 要請する(ようせい) : 強く求める



「私たちのなすべき義務である」とあるが、
ということか。

1 経済的に恵まれた国の食文化にしか研究する
価値がないということ

2 人類の共通財産を守ることができるのは豊かな
国だけだということ

3 豊かな国は貧しい国に文化的な援助を与える
必要があるということ

4 食は一般的な問題だが、先進国しか研究する余裕がないということ

夫がいたころは、枝豆大好きだった夫から、「店に出ているかぎり毎晩でもいいから」と言われて、夕食にゆでたてを出していた。晩酌(注1)がまずくなるからと、昼食も控える(注2)ときもあったくらいで、ましておやつに枝豆など考えられなかったであろう。その習慣で私も枝豆は夕食のものと思い込んでいた。

独りになってからの私は、一人でお酒は飲まないで、いつの間にかおやつに枝豆を食べ始めた。冷やした枝豆の味も覚えたのだが、同じ枝豆でも、お酒と一緒にのときと、ひたすらお豆を楽しんで食するときの味は別のように思う。環境が変わると、ものの食べ方まで変わるもの

なのだと気がついた。

今夜は、チリメンジャコを少し入れ、しょうゆ味の枝豆ご飯を炊くことにしよう。



(注1) 晩酌(ばんしゃく)：家で夕食を食べるときにお酒を飲むこと

(注2) 控える(ひかえる)：制限する



「おやつに枝豆など考えられなかったであろう」とあるが、なぜか。

1 夕食で食べる分の枝豆がなくなってしまうから

2 枝豆をおやつで食べるのは普通ではないから

3 ひとりだけで枝豆を食べるのはさみしいから

4 枝豆は夕食で食べるべきものと思っていたから

花粉症とうまく付き合う

春が訪れ、過ごしやすい季節になりました。しかし最近、（ 1 ）花粉症に悩まされる人が増えています。春は花粉症の季節でもあるのです。

花粉症とは何でしょうか。花粉症は花粉に対するアレルギー反応で、アレルギー体質の人は

花粉症になりやすいと言われています。花粉は体にとって有害なものではありません。しかし、花粉症になりやすい人の体に花粉が入ると、体は花粉を侵入者だと思って、花粉に対してガードマンのような働きをする『抗体』を作り出します。この「抗体」が蓄積されて一定の水準になると、花粉を追い出すためにくしゃみや鼻水などのアレルギー症状が現れます。そのくしゃみや鼻水によって花粉を追い出そうとするのです。（ 2 ）、花粉に対して体が過剰に反応して症状が出るのが花粉症というわけです。

花粉が多く飛び季節を快適に過ごすために、花粉症の人は規則正しい生活をして、体調管理に努め、とにかく花粉に接しないようにしなければなりません。外出時にはマスクやめがねで花粉が体に入るのを防ぎ、帰宅時には服についた花粉を落としてから、家に（ 3 ）。

実は、今花粉症ではない人も、今後症状が現れる可能性があります。花粉症にならないようにするためには、花粉症の人と同じようになるべく花粉に接しないことが重要です。生活空間に花粉を持ち込まないようにしてください。いつ誰が花粉症になっても不思議ではありません。誰も自分には関係がないとは言えないものの、それが（ 4 ）です。

花粉症の人もそうではない人も、春は過ごし方に少し（ 5 ）。

（ 1 ）

1 そういう 2 それの 3 この季節に
4 この夏に

（ 2 ）

- 1 このように 2 いっぽうで
3 ちなみに 4 それどころか

(3)

- 1 入ってあげるのでしょうか 2 入れてあげましょう

- 3 入れるのでしょうか 4 入りましょう

(4)

- 1 規則 2 有害 3 花粉症 4 抗体

(5)

- 1 気をつけてみたらどうでしょうか。

2 気をつけたほうがいいのでしょうか

3 気をつけているそうです

4 気をつければよかったです

寒さを防ぐ便利な道具であるにもかかわらず、人類は歴史のほとんどの期間を通じて、ボタンを知らずに過ごした。(中略) 日本人は帯で締めていた。古代ローマ人は確かに衣服の飾りとしてのボタンは使ったが、ボタンに穴をあけるという発想が欠けていた。また古代

(注1) 中国では紐に棒を通しはしたものの、一歩進んでボタンとボタン穴を発明することはなかった。①

こちらの方がより単純で便利であるの

に、だ。

ところが一三世紀に入ると、突如として

(注2) 北ヨーロッパでボタンより正確にはボタンとボタン穴が出現した。この、あまりにも単純かつ精巧な

(注3) 組み合わせがどのように発明されたのかは、謎である。科学上の、あるいは技術上の大発展があったから、というわけではない。ボタンは木や動物の角や骨で単純に作ることができるし、布に穴をあければボタン穴のできあがりだ。それでも、このきわめて単純な仕掛け

(注4) を作り出すのに必要とされた発想の一大飛躍

(注5) たるや、②

たいへんなものである。ボタンを留めたりはずしたりするときの、指を動かしたりひねったりする動きを言葉で説明してみてほし

い。きっと、その複雑さに驚くはずだ。ボタンのもうひとつの謎は、それがいかに見出されたか、である。だって、ボタンが徐々に発展していった様子など、

③

とても想像できないではないか。つまり、ボタンは存在したか、しなかったかのどちらかしかないのだ。

(注1) 古代：古い時代

(注2) 突如として：突然に

(注3) 精巧な：細かくてよくできている

(注4) 仕掛け：何をするための装置

(注5) 飛躍：急に進歩する

4

①「こちらの方」 とあるが、何を指しているか。

1 日本人の着物と帯

2 ボタンとボタン穴

3 衣服の飾りボタン

4 紐に棒を通すこと

5

②「たいへんなものである。」 とあるが、なぜそういえるのか。

1 簡単で単純な技術しかない時代に発明されているから

2 科学や技術の発展によらずに考え出されたものだから

3 形は単純だが、言葉で説明しようとするとき複雑だから

4 それまでなかったような動作を考える必要があるから

6

③「とても想像できないではないか。」 とあるが、どうしてか。

1 現代の私たちにとっては存在して当たり前のものであるから

2 使用する際には非常に複雑な動きをとものだから

3 少しずつ発展したにしてはあまりにも単純なものだから

4 古い時代のことなので、確実な記録が残っていないから